

令和3年4月22日

# まちづくり委員会資料

全国都市緑化かわさきフェア基本構想の策定に伴う  
パブリックコメントの実施結果について

建設緑政局

## 全国都市緑化かわさきフェア基本構想の策定に関するパブリックコメントの実施結果について

### 1 概要

本市のこれまでの100年を振り返り、次の100年により豊かな環境をつないでいくきっかけとなり、全国へ川崎のみどりを発信するため、市制100周年を迎える令和6年度の全国都市緑化フェアの開催誘致に向け、取り組んでおります。

本市で全国都市緑化フェアを開催する基本的な考え方やコンセプト等を示した「全国都市緑化かわさきフェア基本構想(案)」について、市民の皆様から御意見を募集いたしました。

その結果、26通(意見総数63件)の御意見をいただきましたので、御意見の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表いたします。

### 2 意見募集の概要

題名	「全国都市緑化かわさきフェア基本構想(案)」に関する意見募集
意見の募集期間	令和3年2月1日(月)から令和3年3月2日(火)まで
意見の提出方法	電子メール、FAX、郵送、持参
意見の周知方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・市ホームページへの掲載</li><li>・市政だよりへの掲載</li><li>・かわさき情報プラザ(川崎市役所第3庁舎2階)での閲覧</li><li>・各区役所市政資料コーナーでの閲覧</li><li>・市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課での閲覧</li><li>・建設緑政局緑政部みどりの協働推進課での閲覧</li></ul>
結果の公表方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・市ホームページへの掲載</li><li>・かわさき情報プラザ(川崎市役所第3庁舎2階)での閲覧</li><li>・各区役所市政資料コーナーでの閲覧</li><li>・市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課での閲覧</li><li>・建設緑政局緑政部緑化フェア推進担当での閲覧</li></ul>

### 3 結果の概要

意見提出数(意見件数)	26通(63件)
電子メール	25通(61件)
FAX	0通(0件)
郵送	1通(2件)
持参	0通(0件)

#### 4 意見の概要と対応

かわさきフェアに関する具体的な取組や、開催のフィールドに関する意見などが寄せられました。

川崎の強みに対する意見が寄せられたことを踏まえ、多様なみどりで川崎の強みを活かしていくなど、表現など一部加筆修正をするとともに、所要の整備を行った上で、「全国都市緑化かわさきフェア基本構想」を策定します。

##### (1) 意見に対する本市の考え方の区分の説明

A：意見を踏まえ、案を加筆・修正するもの

B：案の趣旨に沿った意見であり、意見を踏まえ、取組を推進するもの

C：意見を踏まえ、今後取組を進める中で参考とするもの

D：案に対する質問・要望の意見であり、案の内容を説明・確認するもの

E：その他（今回の意見募集の趣旨・範囲と異なる意見）

##### (2) 意見の件数と対応区分

項目	A	B	C	D	E	計
1 「はじめに」に関すること	0	0	1	2	0	3
2 「第1章 川崎だからできること」に関すること	2	0	5	3	0	10
3 「第2章 かわさきフェアが目指すもの」に関すること	2	1	12	2	0	17
4 「第3章 かわさきフェア基本構想」に関すること	0	0	15	0	0	15
5 その他の意見	0	2	10	6	0	18
合計	4	3	43	13	0	63

## 5 意見の概要と意見に対する本市の考え方

### (1) 「はじめに」に関すること（3件）

No.	意見の趣旨	意見に対する本市の考え方	区分
1	<p>国土レベルで見れば、みどりはあふれるようになっている。みどりは量から質の時代に移り変わっている。量から質への転換を促すためには、これまでの川崎市の政策の見直しも必要で、川崎市緑化指針は全域同じレベルで20年前の内容になっており、少なくとも重要な自然が残っている北部には現代的な基準を上乗せする必要がある。</p> <p>アセスメントも含め、みどりに関わる指針や取扱いを都市緑化フェアを機会に、現代にふさわしいものに見直し、その方向性を全国に示す機会としてフェアを活用してほしい。</p>	<p>本市では次の100年により豊かな環境をつないでいくため、これまでの100年で育んできた川崎がストックする「多様なみどり」を暮らしの中で上手に活用するなど、緑が持つ効用を最大限に活用し、都市における新たな緑の価値の創造と多様な主体による緑の都市づくりを目指しており、その契機となる取組として都市緑化フェアを開催してまいります。</p> <p>また、かわさきフェアの開催を契機として、本市の緑化施策の課題についても取り組むとともに、具体的な内容については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
2	<p>「本市のこれまでの100年を振り返り、次の100年により豊かな環境をつないでいくきっかけとなり、全国へ川崎のみどりを発信するため、市制100周年を迎える令和6年度の全国都市緑化フェアの開催誘致」とあるが、そもそも市民にすら川崎のみどりを発信してもらえていない状況を何とかしてほしい。</p>	<p>かわさきフェアの開催を契機として、本市の緑化施策の課題についても取り組んでまいります。</p> <p>また、こうしたかわさきフェアの意義等が広く市民の皆様に伝わるよう、引き続き取組を進めてまいります。</p>	D
3	<p>「川崎の持続的な発展を目指す上では、積極的にSDGs達成に寄与する取組を進めていく必要があり、この取組においてもみどりの果たす役割はとて重要」と書かれているからには陸の豊かさに寄与できる選択が求められる。</p> <p>しかし、川崎市の緑化施策にはそうした意欲がまるで感じられない。折角市内には青少年科学館や二ヶ領せせらぎ館、大師河原干潟館といった施設があり、また多くの環境保全・保護団体が活動しているので、彼らからアドバイスを貰った上で適切な緑化を行なってほしい。</p>	<p>かわさきフェアを契機としてSDGsの達成に緑で寄与する取組や、都市における市民の新たなライフスタイルに緑を活用する取組を推進してまいります。</p> <p>多様な主体との連携については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	D

(2)「第1章 川崎だからできること」に関すること (10件)

No.	意見の趣旨	意見に対する本市の考え方	区分
1	<p>「みどり」で多様性を繋ぐ、「みどり」で新たなライフスタイルの価値を高めるなど、川崎の強みにそれぞれ「みどり」を盛り込むべきではないか。</p> <p>(同趣旨の意見 他1件)</p>	<p>御指摘のとおり、多様なみどりで川崎の強みを活かしていくことは大変重要であると考えておりますので、資料に「多様なみどり」の文言と取組のイメージがわかる写真を追加しました。</p>	A
2	<p>「新たなライフスタイル」に、グリーンコミュニティ、グリーンインフラ、グリーンリカバリーについても触れると興味が湧き、産官学連携で取り組めるとよい。</p>	<p>グリーンコミュニティ、グリーンインフラ、グリーンリカバリーについては、緑が持つ効用を最大限に活用し、都市における新たな緑の価値の創造と、産官学連携等の多様な主体による緑の都市づくりを目指す上では、大変重要な要素であると考えております。</p> <p>具体的な取組については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
3	<p>川崎がストックする「多様なみどり」の地図でも明らかなように、川崎市内の環境には深刻な南北格差がある。南部の市民は、乱開発によって極めて人口密度が高く、公園緑地や畑に乏しい環境での居住を強いられている。</p> <p>休日の大師公園は芝生にテントがひしめき合って最早難民キャンプのようで、イベントの開催をするのであれば、全政令指定都市の中で公園面積最小の汚名を返上してから行ってほしい。</p>	<p>かわさきフェアでは、緑が持つ効用を最大限に活用し、これまでの数量や自然環境的な視点のみならず、市民生活との関わり、多様な市民ニーズへの対応など社会的な視点も持って、みどりで寄与する取組や、都市における市民の新たなライフスタイルに緑を活用する取組を推進してまいります。</p>	D
4	<p>「多様なみどりと強みがあります」と記載があるが、強みという語には、魅力とは違い自信があるという意味に感じる。他者を排除するような自己満足、自画自賛の印象を受けるため、このメッセージで言いたいことは、市民みんなが培ってきた土壌という意味であると思うので、強みの文字を、「土壌」あるいは「ちから」、「魅力」などと言い換えてはどうか。</p>	<p>川崎らしく、次の100年により豊かな環境をつないでいくにあたり、川崎らしさを「強み」として表現いたしました。この強みにみどりを活かしていくことで、川崎らしい緑化フェアの開催を目指してまいります。</p>	D

5	<p>緑化フェアではどのような多様性を想像しているのか。</p> <p>また、市民の中で、多様性をどのように共通認識して、それを繋げていけるかが重要ではないか。</p> <p>(同趣旨の意見 他3件)</p>	<p>かわさきフェアを契機とし、みどりが持つ力を使って、川崎らしく次の100年により豊かな環境をつないでいけるよう取組を進めてまいります。</p> <p>来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	D
6	<p>豊かな環境をつくとあるが、何をもって豊かと言えるのか。みどり豊かな環境をつくるのか。かわさきフェアをきっかけに何が変わるのか具体的に記載してほしい。</p>	<p>かわさきフェアについては、これまでの川崎の100年を振り返り、これからの川崎をどのようなまちにしていくのか、川崎だからできることとは何なのか、そして、みどりが持つ力を使い、川崎らしく、次の100年により豊かな環境をどうつないでいくのかを市民の皆さんと一緒に考え、行動する「きっかけ」としてまいりたいと考えております。</p> <p>具体的な内容については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	D

(3) 「第2章 かわさきフェアが目指すもの」に関すること（17件）

No.	意見の趣旨	意見に対する本市の考え方	区分
1	4ページの川崎がストックする「多様なみどり」の「農」の部分で健全な農業経営と多面的な農地の活用との関係性はあまりないのではないか。同じ文章の中にこの2つの言葉が入っていることに少し違和感がある。	健全な農業経営は農地の維持・保全につながり、結果として農地の持つ多面的な機能が発揮されると考えております。 しかしながら、このページでは、川崎がストックする「多様なみどり」として「農地」を取り上げており、関連性も間接的であることから、「健全な農業経営」の表記を削除し、修正いたしました。	A
2	地域愛の育み方とあるが、地域愛は自発的に生まれるもので、行政からあえて育み方と言う必要があるのか。	かわさきフェアでは、川崎を知る機会を提供することで、市民の地域愛を育む取組を進めてまいりたいと考えております。 市民の皆様に伝わりやすい表現とするため、御指摘を踏まえ「川崎らしい多様なみどりを活用して育む「地域愛」」に修正いたしました。	A
3	ぜひ、この機会を利用し、都市緑化のPRのみならず、「緑を通じた市民の地元愛の向上」も意識した事業展開を希望する。	かわさきフェアでは、川崎を知る機会を提供することで、市民の地域愛を育む取組を進めてまいりたいと考えております。 具体的な取組については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。	B
4	開催の意義や目的等は理解するが、かわさきフェアを実施して、川崎市が何を目指し、市民に対してどのような行動を求め、その効果として何を期待するのかというような、具体的なビジョンや視点がこの基本構想からは見えない。そうしたことが見えなければ単なるイベントにしかならないのではないかと。  (同趣旨の意見 他3件)	本基本構想(案)は、かわさきフェア開催に向けた基本的な考え方やコンセプトを取りまとめたものでございます。御指摘のとおり単なるイベントとせず、継続的な取組となるよう、具体的なビジョンや視点については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。	C

5	<p>「農業」、「農地」については、後継者不足や農地の減少による産業としての市内農業の衰退に対して、広範な市民のレジャー、教育、文化、コミュニティ等と結びつく暮らしの中の「農業」「農地」を発信する好機である。</p> <p>150万人の市民のパワーを活かし、農業後継者不足や農地減少への対策、市内産農畜産物の供給の維持・伸長、地産地消の価値共有等を図る次の100年となるような具体的実施策をお願いしたい。</p> <p>都市農業や都市農地が持つ多面的機能を発揮する仕掛けとなるのではないかと。</p> <p>(同趣旨の意見 他3件)</p>	<p>御指摘のとおり、かわさきフェアでは都市農業や都市農地が持つ多面的機能を発揮する絶好の機会となるようにしていくことが重要であると考えておりますので、具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
6	<p>みどりを増やす、保つことのメリットをより具体的に提示できると良いのではないかと。川崎市に意外とみどりが多かったり、みどりと暮らしを結びつける事が重要視されているということが、市民にはそこまで認知されていないように感じる。</p> <p>(同趣旨の意見 他1件)</p>	<p>基本的な考え方としてお示した「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」について、広く市民の皆様にお伝えできるよう、具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
7	<p>フェアのレガシーを「地域愛を持った市民」とするのであれば、市民の地域愛を計測する成果指標を設定し、フェアの実施前後に定期的・継続的に調査すべきである。効果検証なくして、フェアの成否はわからない。</p>	<p>かわさきフェアでは、地域愛を持った市民が次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいくことを目指してまいります。</p> <p>御指摘の効果検証など、具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C

8	<p>川崎がストックする「多様なみどり」をそれぞれの特性に応じて、適正に「知る」ことは有意義である。それには、科学的な知見を活かし、「知る」内容や取り扱いを、地域と行政と専門家が協働して見出していくべきである。</p> <p>最近のナラ枯れへの対応は、単木の対応ではなく、雑木林を皆伐更新し、若齢の雑木林に再生することで根治療法的に対応できる。</p> <p>社会的な雰囲気では、樹木伐採に対する市民の反対は強いので「知る」ことは、雑木林の成り立ちを知り、現在の雑木林が異常だということを理解すべきもので、都市緑化フェアで望まれることは記念植樹ではなく、記念「伐採」一皆伐更新である。</p>	<p>かわさきフェアでは、川崎を知る機会を提供することで、市民の地域愛を育む取組を進めてまいります。</p> <p>具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
9	<p>基本的考え方①について、かわさきフェアで「みどりとともにある暮らし、健やかで笑顔の毎日を我が街川崎から発信しよう！」としたらどうか。</p> <p>基本的考え方②の「川崎の多様な人」という文字に、差別的なものを感じるので、必要ない。ここでは、テーマをしばり、「川崎の食とみどり」「川崎の水とみどり」「川崎のみどりと公園」「川崎のみどりと健康」「川崎のみどりと生きもの」「川崎の科学とみどり」「川崎のみどりと人々」のようにし、今までの取組を紹介するのはどうか。</p> <p>基本的な考え方③は、「かわさきフェアを五感で体験して、次の100年も川崎のみどりとともに潤いのある生活を！」としたらどうか。</p>	<p>基本的な考え方については、かわさきフェアが目指すものとして、フェアの取組やレガシー等の考え方をお示したものです。</p> <p>表現等については、今後の基本計画等の策定においても、市民の皆様に正しく伝わるよう検討してまいります。</p>	D
10	<p>みどりへの感謝や、みどりがあって人間の暮らしという観点が感じづらい。</p> <p>コンセプトは、「地球のみどりの恵みに感謝し、すべての人とみどりを分かち合い、まちづくりや暮らしにみどりの彩を！」としたらどうか。</p>	<p>コンセプトについては、かわさきフェアが目指すものとして、すべての人に等しく存在し、まちづくりや暮らしのすべての場面で多様な効果を発揮するみどりを活用した取組の推進に向けたものとしております。</p> <p>表現等については、今後の基本計画等の策定においても、市民の皆様に正しく伝わるよう検討してまいります。</p>	D

(4) 「第3章 かわさきフェア基本構想」に関すること（15件）

No.	意見の趣旨	意見に対する本市の考え方	区分
1	<p>会場は「川崎市の多様なみどりを知り、活かす活動を全市的に展開する」としているが、式典、行催事等については、富士見公園を想定していることに違和感がある。</p> <p>事業内容や交通対策など市民がフェアに参加しやすい会場は市内の中心部もしくは、緑の多い地域での開催が望ましいのではないかと。</p> <p>(同趣旨の意見 他9件)</p>	<p>富士見公園については、本市の玄関口である川崎駅から近く、羽田空港に隣接しており、市内外からの集客も見込めることから、式典や行催事の会場として想定しています。</p> <p>かわさきフェアは、皆様に地域ごとの特色を知っていただき、交流を育み、川崎の魅力と価値を高めていくため、全市的に展開することとしており、会場等の具体的な内容については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
2	<p>多摩川も川崎のみどりと切り離せないので、(会場として) 大きく明記してほしい。</p>		
3	<p>生田緑地の植物の種類のは全国7番目で、都市近郊でこれだけの種類があるのは全国的にも素晴らしいことなので、(会場として) 書き加えてほしい。</p> <p>また、公園のマネジメント団体、地域団体、大学、行政、企業などからなる54の正会員と準会員1団体が協働運営していることも特筆すべきである。</p>		
4	<p>式典や行催事等を行う想定富士見公園は、全体の雰囲気や景色は殺伐とした印象を受ける空間であり、訪れた人の川崎市のイメージを落としかないので、開催年の令和6(2024)年までに、富士見公園を潤いの感じられる整然とした美観空間に抜本的に整備する必要がある。</p>	<p>かわさきフェアの会場利用においては、今後、実施予定の富士見公園再編整備と併せて検討を進めてまいります。</p> <p>また、行催事等の具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において検討を進めてまいります。</p>	C

5	<p>生田緑地ばら苑は、昭和33（1958）年向ヶ丘遊園内に開園し、当初は関東一と称され、向ヶ丘遊園が閉園から1年後には6万を超えるばら苑の保全を含めた請願署名が提出され、平成26（2014）年に川崎市が購入を決定し、市民のボランティアの方々によって支えられ、春と秋の開花の時期のみ一般公開されているが、川崎市に移管後、本格的な整備はされず、開園からあるローズガーデンハウスは築63年で、耐震補強もされていない。</p> <p>隣接する向ヶ丘遊園跡地に野外施設、温浴施設、商業施設などが開園予定で、ここに多くの人が集まる事で、隣にあるばら苑の入苑者も増えると予想され、市制100周年の記念の全国都市緑化かわさきフェアを好機に、川崎市の宝とも言える生田緑地ばら苑の全面的な整備、特にローズガーデンハウスの改修を提案する。</p>	<p>かわさきフェアの会場整備等の具体的な取組については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p>	C
6	<p>横浜市の寺家ふるさと村は、近いので良く行くが、子どもは舗装されていない急な坂道を喜んで走り回っている。</p> <p>子どもにとっては遊具が無くても自由に自分で選んだ道を歩き、それだけで秘密基地になり、アスレチックになるので、そういう場をフェアにも作ってほしい。</p>		

(5) その他の意見 (18件)

No.	意見の趣旨	意見に対する本市の考え方	区分
1	<p>川崎は他の都市と比べても豊かな魅力があるまちだと思う。昔から市民に愛され必要とされている資源は、緑や多摩川といった自然であると思うが、川崎の印象と聞かれて緑や自然とすぐに答える方は市内外の方問わず少ないが、この緑豊かな川崎の魅力を一人でも多くの方に伝えるため、この機会にぜひ、その川崎の緑の資源をより拡充させ、広く発信し、川崎の魅力と価値を高めることで川崎＝緑といったようなイメージを広げてほしい。</p> <p>(同趣旨の意見 他1件)</p>	<p>かわさきフェアを契機とし、みどりが持つ力を使って、川崎らしく次の100年により豊かな環境をつないでいけるよう取組を進めてまいります。</p>	B
2	<p>全国都市緑化フェアでは川崎市内に多くの人が訪れて交流することから、課題であるイメージ改善のため、川崎市の印象を下げる落書きやゴミのポイ捨てを許さない強固な風土を令和6(2024)年までの構築を目指し、来年から全市をあげた美化のためのさらなる施策や新たな取組を展開して実施してほしい。</p>	<p>かわさきフェアの具体的な取組については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p> <p>なお、来年度以降の取組については、いただいた御意見を参考に、可能なものから随時着手してまいります。</p>	C

3	<p>川崎の文化について、川崎市が「音楽のまち・かわさき」、「映像のまち・かわさき」などもアピールしていることを入れてほしい。また、岡本太郎美術館、藤子・F・ミュージアムもあり、歌手坂本九氏や他にも活躍された方がたくさんいるので、音楽とみどりをコラボレーションさせた企画も楽しいと思う。</p>	<p>本基本構想（案）は、かわさきフェア開催に向けた基本的な考え方やコンセプトを取りまとめたものでございます。</p> <p>多様な主体との連携など、具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において、検討してまいります。</p>	C
4	<p>既存の各地域での花壇ボランティアなどの活動をもっと参加しやすくなる仕組みにして広めていくのも重要ではないか。</p>		
5	<p>川崎フロンターレは地域密着の活動もしているので、コラボレーションした活動もさらに緑化フェアの魅力を高める手段となり得るのではないか。</p>		
6	<p>川崎市内の企業にも働きかけしていくことも重要ではないか。</p>		
7	<p>緑化フェアを活用した商店街の活性化もできないか。</p> <p>市民の方々の身近な場所で取り入れることで、緑化フェアが終わった後も継続的にみどりを持続していけるものになるのではないか。</p>		

8	<p>緑化フェアの内容が、市民に緑化について、興味を持ってもらえ、満足度につながり、川崎の魅力、自然が生かされる内容なので実現が楽しみである。しかし、市民がイベント慣れしてしまい、自由に遊び想像する事ができなくなりそうで、自ら緑や自然について考える機会が失われるのでは無いかと心配している。</p> <p>イベントは大事だが、参加者がお客様になりやすいので、参加者が自ら考えて、失敗しながらも作り続けていけるような内容も盛り込まれていると、自然により深く接して、愛して、大事にしていける心も育てて行けるのではないかな。</p>	<p>緑化フェアについては、みどりが持つ力を使って、川崎らしく次の100年により豊かな環境をつないでいけるよう、多様な市民・企業とともに全市を挙げて推進するかわさきフェアを目指し、引き続き取組を進めてまいります。</p> <p>具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、来年度策定する基本計画以降において、検討してまいります。</p>	C
9	<p>イベントを行なうには、市民が気軽に環境情報を得られるよう発信力を高めてほしい。市政100周年の節目に川崎市の鳥、魚を市民に投票してもらおうのも良い。</p> <p>市民と市の環境意識が少しでも向上してほしい。</p>		
10	<p>市民が都市緑化フェアに大いに期待を寄せるような機運醸成、市内全域がテーマパークになるかのような全市的な展開ができれば、市内外、国内外において川崎を存分にPRできる。</p>		
11	<p>昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大で生活様式が変化しつつあり、実際にかわさきフェアを開催する頃にはどんな状況になっているか想像もつかないが、子どもも大人も巣ごもり状態を余儀なくされているので、かわさきフェアでは、心身の健康バランスにみどりの効果を期待したい。</p>		

12	<p>全体的に感じたのは、構想段階なので具体性が乏しくイメージしづらい。かわさきフェアは年代、性別を問わず、多くの方に参加してもらいたいので、表現や語句を幼い子どもでも理解できる言葉で示してほしい。</p> <p>(同趣旨の意見 他3件)</p>	<p>本基本構想(案)は、かわさきフェア開催に向けた基本的な考え方やコンセプトを取りまとめたものでございます。</p> <p>多様な市民・企業とともに全市を挙げて推進するかわさきフェアを目指し、表現等については、今後の基本計画等の策定において、御指摘の内容を踏まえながら、市民の皆様にはわかりやすく伝わるよう検討してまいります。</p>	D
13	<p>かわさきフェアの基本計画策定にあたり、都市と自然のつながりをテーマにした思考で次々新しい空間を生み出し、国内外で高い評価を得ている建築家の藤本壮介氏をアドバイザーに迎えてほしい。</p>	<p>かわさきフェアの具体的な取組については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p> <p>計画策定にあたりアドバイザーをお迎えする予定はございませんが、様々な視点からの御意見をいただきながら取り組んでまいります。</p>	D
14	<p>まちのみどりの中でも、街路の緑、特に駅周辺の中心道路や幹線道路沿いなどの多くの人の目に触れる道路の緑は、都市生活を送る多くの市民の「地域愛」を育むことや、訪れる人、通過する人の川崎市に対するイメージ形成の上でも重要であり、事業中の区間は用地取得や整備のピッチを上げて開催年である令和6(2024)年度までに完成させ、未整備の区間も計画区間の早期の事業着手が展望出来る状況になるよう、今回の全国都市緑化かわさきフェア開催が、都市計画道路整備の加速化の契機になるような推進をお願いしたい。</p>	<p>かわさきフェアの具体的な取組については、来年度策定する基本計画以降において検討してまいります。</p> <p>なお、本市の都市計画道路の整備については、川崎市道路整備プログラムに基づいて計画的に推進していくこととしております。</p>	D

# 2024 全国都市緑化かわさきフェア 基本構想

## ～ Green For All! ～



川崎市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



# 全国都市緑化かわさきフェア 基本構想



## はじめに

- P.1 かわさきフェアの開催意義
- P.2 全国都市緑化フェアとは

## 第1章 川崎だからできること

- P.3 これまでの川崎の100年
- P.4 川崎の多様なみどり
- P.5 川崎の強み①「多様性は可能性」
- P.6 川崎の強み②「豊かな環境をつくる」
- P.7 川崎の強み③「新たなライフスタイル」

## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

- P.8 基本的な考え方
- P.10 かわさきフェアのコンセプト
- P.11 かわさきフェアのフィールド

## 第3章 かわさきフェア基本構想

- P.12 基本的事項
- P.13 展開イメージとスケジュール

## はじめに（かわさきフェアの開催意義）



# 未来の川崎に向けて

川崎市は令和6（2024）年7月に市制100周年を迎えます。

私たちのまち川崎は、約400年前の江戸時代初期に完成した「二ヶ領用水」が大地を潤し、農業とともに発展してきました。

川崎市では、110年ほど前から臨海部が埋め立てられ工業が発展するとともに、徐々に北部に向かって都市開発がされていく中で、多くの樹林地が失われ、それと引き換えに利便性の高い都市が生まれてきた100年でした。

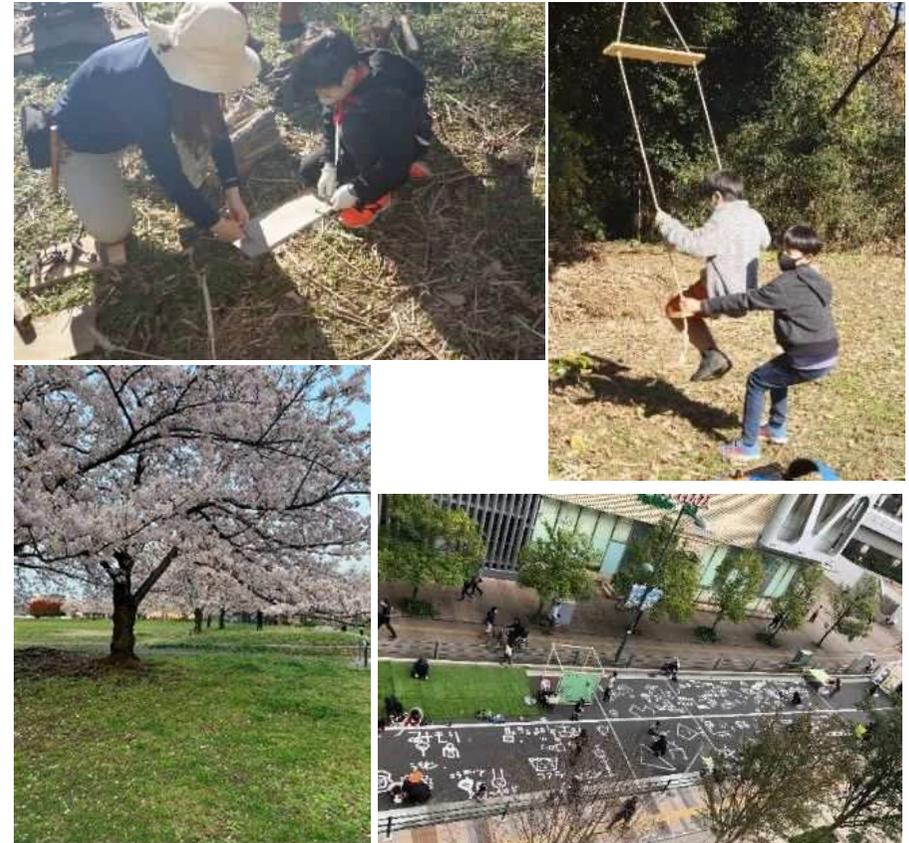
しかし、近年では社会状況や市民のライフスタイルの変化にともない、暮らしの中にみどり※1を取り入れる動きが広がるなど、みどりの価値が大きく変わろうとしています。

また、川崎の持続的な発展を目指すうえでは、積極的にSDGs※2達成に寄与する取組を進めていく必要があります、この取組においてもみどりの果たす役割はとても重要です。

これまでの川崎の100年を振り返り、これからの川崎をどのようなまちにしていくのか？川崎だからできることって何なのか？

そして、みどりが持つ力を使って、川崎らしく、次の100年により豊かな環境をどうつないでいくのか？

市民の皆さんと一緒に考え、行動する「きっかけ」とするため、全国都市緑化フェアを本市で開催し、川崎のみどりを全国に向けて発信します。



全国都市緑化  
フェアって何？

※1 かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす「基盤サービス」（光合成、栄養循環、水や空気の浄化）・「供給サービス」（食料や資源の供給）・「調整サービス」（暑熱化の緩和や災害軽減）・「文化的サービス」（精神充足、レクリエーション）の4つの「生態系サービス」も含めた幅広い視点をみどりとして捉えるものとします。

※2 「2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年～2030年までの国際目標。

「Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標」の略。

## はじめに（全国都市緑化フェアとは）



# 緑豊かな潤いのある都市づくりのための全国都市緑化フェア

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として開催するもので、昭和58（1983）年から令和2（2020）年まで、37回開催されています。

全国都市緑化フェアを代表する行事には、全国都市緑化祭※3があり、皇室による記念植樹等が行われています。



第33回横浜フェア 里山ガーデン（公園予定地） みなとガーデン（街中）  
第35回山口フェア 県営きらら博記念公園  
第36回信州フェア 県営松本平広域公園

川崎市では、これまでの100年を振り返り、次の100年に

より豊かな環境を川崎らしく 未来につないでいく

「きっかけ」となる「かわさきフェア」を開催します

### 【全国都市緑化祭の様子】



出典:平成30年度 全国都市緑化祭報告書



令和元年度 全国都市緑化祭報告書

### 【近年の状況】

開催年度	開催地	時期	開催日程	期間
令和3年度 (2021年度)	熊本市	春	3月～5月頃	2ヵ月程度
令和2年度 (2020年度)	広島県・広島市 他22市町	春～秋	R2.3.19～11.23 メイン会場：3/19～5/24 67日間	250日間
令和元年度 (2019年度)	長野県・松本市・ 大町市・塩尻市・ 安曇野市	春	H31.4.25～R1.6.16	53日間
平成30年度 (2018年度)	山口県・山口市	秋	H30.9.14～11.4	52日間
平成29年度 (2017年度)	八王子市	秋	H29.9.16～10.15	30日間



これまでの川崎の  
100年を振り返ってみよう

※3 全国都市緑化フェア開催期間中の中心的行事として開催。例年、皇室の御臨席を賜る。内容は、式典（おこたば、各種表彰、緑化宣言等）、植樹式等

# 第1章 川崎だからできること（これまでの川崎の100年）



## 多様な層の積み重ねからなる川崎100年の変遷

### ●江戸時代から川崎市誕生前の暮らしぶり

- ・東海道川崎宿、多摩川の渡し場の賑わい。
- ・江戸の商品経済の発展とともに、農・魚村の特産物で商業も発達。
- ・多摩川の水害や水不足、二ヶ領用水の恩恵。
- ・江戸後期から川崎大師は庶民の行楽で賑わう。
- ・明治末期から京浜工業地帯が発達、働き場となり、国内外から人口流入。
- ・工業化による農村、漁村への影響、公害の発生。
- ・明治初期、新橋～横浜間の鉄道開通。各鉄道の発展と共に街も大きく変化。
- ・大正13（1924）年・「川崎市」誕生。

### ●川崎市発展のあゆみ、戦中戦後、高度経済成長

- ・戦中は軍需工業都市に一変し、多くの勤労者が流入。
- ・臨海部では戦後埋立が発展。日本最大の石油化学コンビナート地帯の一翼を形成。労働者の人口流入が続き、公害問題が社会問題化。
- ・丘陵部では、鉄道開発と大規模なニュータウン開発が進み、ベッドタウンとして転入による人口増加が継続。

### ●産業構造変化による再開発、続く市の発展

- ・1970年代以降、工場移転や研究開発事業へ転換する企業の増加。
- ・工場跡地等の大規模な再開発が進み、事業、住宅地、学校などへ、新たな土地利用の変化がおき、現在も人口流入が継続。
- ・国から「SDGs 未来都市」に選定。
- ・脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」の行動開始。

川崎には  
これまでの100年で  
育ててきた  
多様なみどりと強みが  
あります

## コミュニティ

青い空と白い雲運動



多文化共生



まちづくり活動



【多摩区SDC】ソーシャルイニシアチブ（SDC）の創出



工場夜景



EVごみ収集車



研究開発都市／殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント

## 産業

京浜工業地帯の発達

国内最大の石油化学コンビナート



工業地域のスモッグ

## 文化



川崎大師



地域催事



川崎ハロウィン



若者文化

## 歴史



橋樹官衙遺跡群



加瀬山（夢見ヶ崎動物公園）



東海道川崎宿



二ヶ領用水

江戸～明治頃の主な特産品  
稲毛米・醤油・長十郎梨・禅師丸柿・海苔・製塩



久地円筒分水

## 自然環境

多摩丘陵・多摩川・崖線海進



多摩丘陵



昭和14（1939）年 防空緑地の指定 多摩川（緑地）



昭和15（1940）年 「富士見公園」の開園 市内初の都市公園



昭和16（1941）年 「生田緑地」都市計画決定



昭和51（1976）年 初の緑地保全地区 「久末緑地保全地区」

平成7（1995）年～ 緑の基本計画 平成30（2018）年 改定



かわさき里山コラボ事業



農村環境



東京湾



市民100万本植樹運動事業

20 地保全活動



川崎のみどりって何？

# 第1章 川崎だからできること（川崎の多様なみどり）



## 川崎がストックする「多様なみどり」

**農地** 【農地面積：約547ha  
（令和2（2020）年5月現在）】



**都市農地の保全**  
良好な都市環境の維持、防災機能の発揮など多面的な農地の活用を推進しています。

**農業への理解の促進**  
市民と「農」を結びイベントや農業体験機会の創出などを推進しています。

**樹林地** 【保全した樹林地等：約245ha  
（令和2（2020）年3月現在）】



**樹林地の保全**  
緑地総合評価と土地所有者の協力により樹林地の保全を推進しています。

**多様な主体との連携**  
民間企業・教育機関等との連携による里山の保全活動を推進しています。

**公園緑地** 【市民一人あたりの公園面積：4.95㎡  
（令和2（2020）年3月現在）】

●川崎市の三大公園

**生田緑地**  
市の北西部、多摩丘陵の一角に位置する市内随一の緑の宝庫です。緑地内には個性豊かな文化施設も設置されています。

**等々力緑地**  
市のほぼ中央に位置し、多数の運動施設、文化施設、市民の憩いの場など多面的な機能を有する総合公園です。

**富士見公園**  
市の南部に位置する総合公園で、周辺には市民利用施設が集積しており、市民の憩いの場や様々な活動の拠点となっています。

**身近な公園の利活用**  
社会状況や市民ニーズの変化に対応した公園緑地の柔軟かつ多様な利活用を推進しています。



**河川**



**川崎市新多摩川プランの推進**  
「川とふるさとの再生 市民協働による多摩川ライフの創造」を基本理念に、多摩川の特性を活かした取組を推進しています。

**中小河川等の水辺地の保全**  
ニヶ領用水をはじめ、地域との連携による水辺に親しめる環境整備を推進しています。



**まちのみどり** 【地域緑化推進地区：27地区  
（令和2（2020）年4月現在）】



地域や民間企業等の自主的な緑化の取組を推進しています。

地域緑化推進地区の普及促進 事業所緑化の推進

**臨海** 【事業所敷地10%以上の緑化推進目標とした協定締結推進：約130ha緑地創出  
（令和2（2020）年3月現在）】

「臨海のもり」づくり  
事業所の緑化地や、港湾緑地・都市公園などの公共緑地を風の道となる街路樹等の緑でつなぎ、運河や多摩川の水辺環境も含め、臨海部全体を緑豊かな「もり」と想定し、臨海部全体の発展と楽しさや魅力を感じられる環境形成を目指して取組を推進しています。




川崎の「多様なみどり」を  
どう活かしていこう？  
川崎の「強み」から考えてみよう

## 第1章 川崎だからできること（川崎の強み①）



### 『 多様性は可能性 』

川崎は、まちの発展に伴い多くの人に移り住むようになり、様々な国の方が何世代にもわたり生活するなど、多くの人々が暮らす中で、多様な文化や価値観を上手に取り入れる「寛容さ」で、独自の「多様性」を育んできました。

東京・横浜という大都市に隣接する利便性もあり、現在でも人口が増え続け、新たな産業が生まれている川崎は、「多様性」と「寛容さ」にあふれているからこそ、今でも新たな文化が生まれ、100年前から今日まで「多様性」にあふれるまちとして発展し続けています。

川崎には固定的なイメージはなく、「多様性にあふれたまち」だから、これからもたくさんの新しい文化が生まれ、発展し続ける「可能性にあふれたまち」です。



川崎の「多様なみどり」を活かそう



北西部の樹林地の活動イメージ



都市農地の活用イメージ



まちなか・商店街での活動イメージ



臨海部に広がる緑地イメージ

多様性に富んだ魅力と

常に変化を受け入れる寛容さを持つ川崎だから

「多様なみどり」も上手に活用して

新たな文化を生み出すことができる

## 第1章 川崎だからできること（川崎の強み②）



## 『 豊かな環境をつくる 』

川崎は、これまでの100年の歴史の中で、経済成長とともに、公害対策や緑地の保全、生活環境の向上など、様々な環境問題を市民、事業者などと協力して取り組んできました。

地球規模で気候変動対策等が課題となっている中、川崎が様々な課題にこれまで市民、事業者などと取り組んできた歴史と、持続可能な社会の実現に向けた取組が国から評価され、令和元（2019）年7月には「SDGs未来都市」に選定されています。

また、令和2（2020）年11月には、脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定し、2050年の脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。

川崎はまちの発展とともに環境問題に取り組んできた実績があり、より豊かな環境を未来につないでいく力を持っています。



川崎の臨海部



燃料電池車



事業所緑化



脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」

川崎の「多様なみどり」を活かそう

雨水を抑制、活用するグリーンインフラ  
【レインガーデン(ポートランド)】鉄道高架跡地を活用したグリーンインフラ  
【ハイライン(ニューヨーク)】

みんなで環境問題に取り組んできた川崎だから

「多様なみどり」も上手に活用して

さらに豊かな環境をつくることのできる

## 第1章 川崎だからできること（川崎の強み③）



## 『 新たなライフスタイル 』

川崎は、その利便性の高さゆえに希薄になりやすい人と人のつながりを大事にしてきました。また、都市部であるからこそ、多摩丘陵や多摩川など豊かな自然環境を、市民協働により維持・保全に取り組むとともに、都市農業の振興にも努めてきました。

現在、新型コロナウイルスが世界的な大流行となり、日々、社会状況が急速に変化するなど、先が見えない不安に直面している中で、人々の暮らしには生活様式の変化が起きています。

また、サイバー空間（仮想）とフィジカル空間（現実）が高度に融合する「Society 5.0\*4」が提唱されるなど、社会や生活環境に大きな変化が起こり、今までのライフスタイルを見直す時期が来ています。

これからの社会に求められる、新たなライフスタイルに活用できる人のつながり・自然環境・資源を、川崎は持っています。



みどり豊かなコワーキングスペース  
(小田急 黒川駅前)



高層オフィスビル屋上に広がる  
都市部のみどりの空間

利便性の高さゆえに人のつながりや  
自然環境を大事にしてきた川崎だから  
「多様なみどり」も上手に活用して  
新たなライフスタイルを生むことができる

川崎の「多様なみどり」を活かそう

\*4 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会として、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会



「川崎だからできること」を活かして  
「かわさきフェア」をはじめよう!

## 第2章 かわさきフェアが目指すもの（基本的な考え方）

### 基本的な考え方①

かわさきフェアは、「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。



### 基本的な考え方②

川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。

## 第2章 かわさきフェアが目指すもの（基本的な考え方）



### 基本的な考え方③

かわさきフェアのレガシーとなる

地域愛を持った市民が、次の100年に向けて、

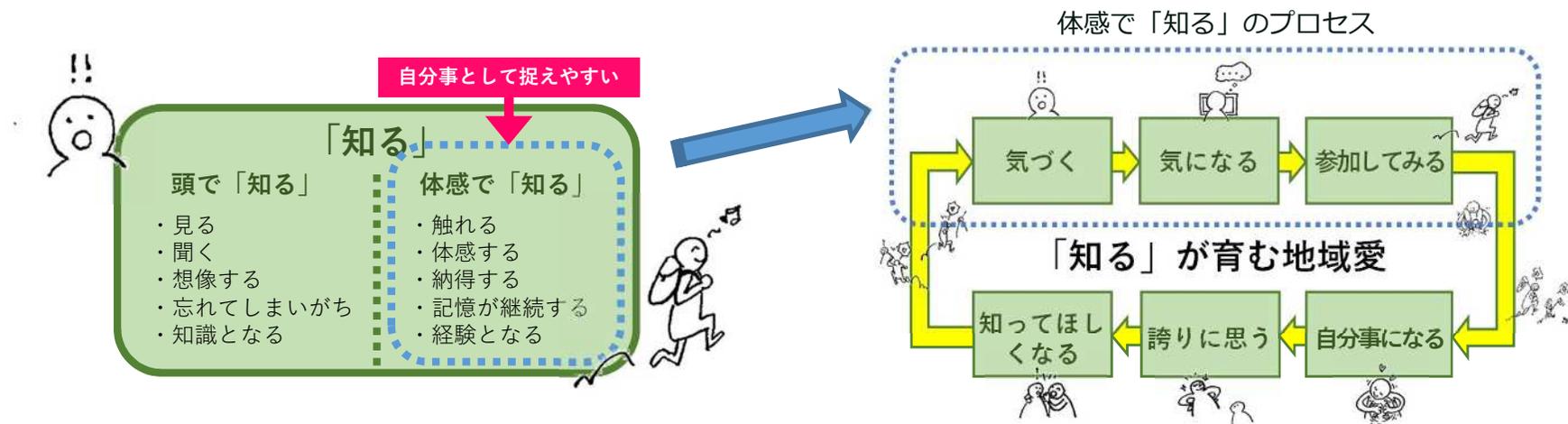
川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。



## 川崎らしい多様なみどりを活用して育む 「地域愛」

### ★きっかけづくり＝「知る」機会の提供

- かわさきフェアでは、すべての人に等しく存在し、あらゆる場面で多様な効果を発揮するみどりの力を活用しながら普段は見過ごしている「川崎」を知る機会を提供することで、市民の地域愛を育み、一人ひとりが川崎について周囲に伝えたいような取組を推進します。



かわさきフェアでは、みどりを上手に活用した体感で「知る」機会を提供します

## 第2章 かわさきフェアが目指すもの (かわさきフェアのコンセプト)



かわさきフェアは、**Green For All!** でみどりのムーブメントを起こします

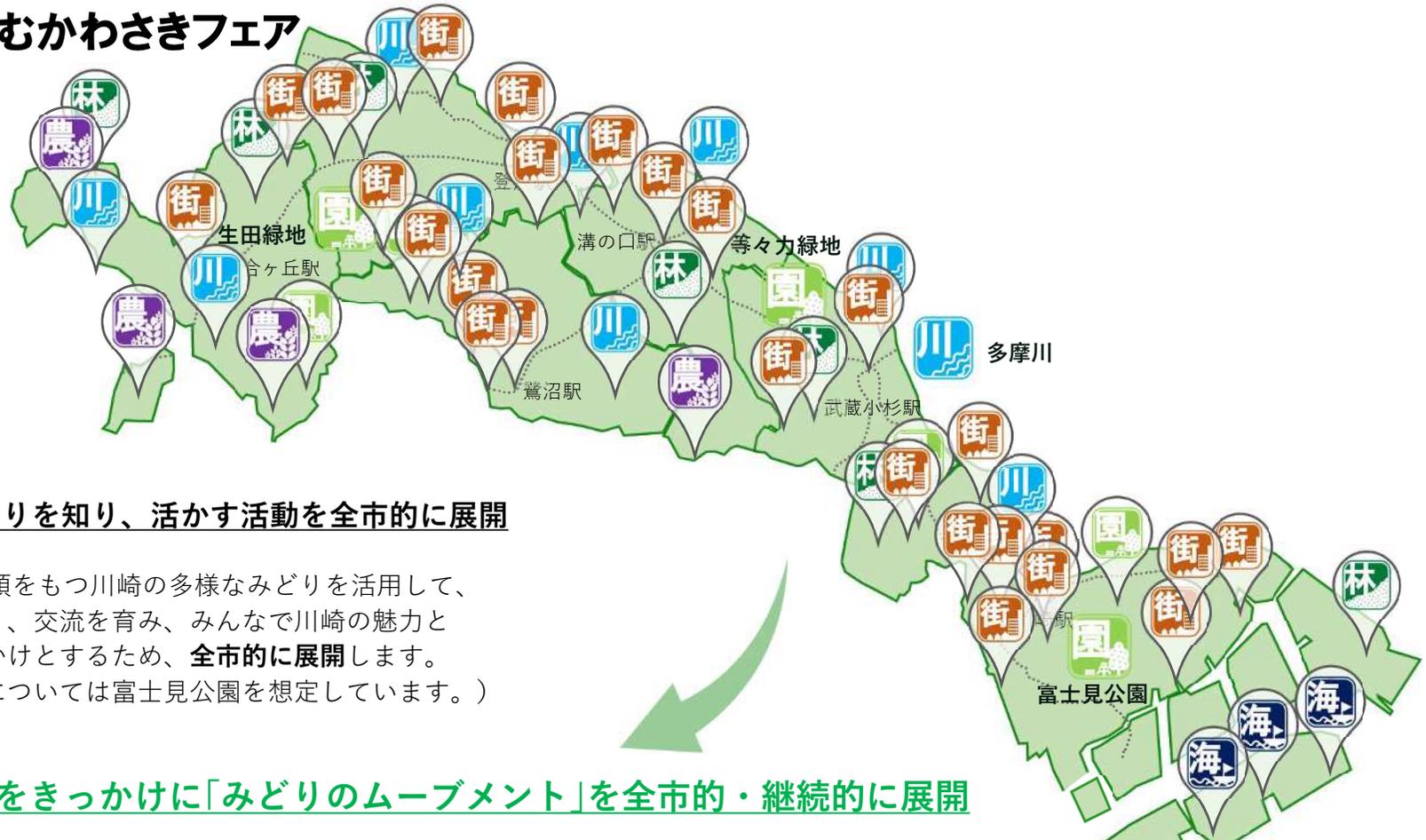
みどりは、すべての人に等しく存在し、まちづくりや暮らしのすべての場面で多様な効果を発揮します。



## 第2章 かわさきフェアが目指すもの（かわさきフェアのフィールド）



## 全市的に取り組むかわさきフェア



## ★ 川崎の多様なみどりを知り、活かす活動を全市的に展開

- 地域ごとに様々な顔をもつ川崎の多様なみどりを活用して、お互いの特色を知り、交流を育み、みんなで川崎の魅力と価値を高めるきっかけとするため、**全市的に展開**します。  
(式典や行催事等については富士見公園を想定しています。)

## ★ かわさきフェアをきっかけに「みどりのムーブメント」を全市的・継続的に展開



## 第3章 かわさきフェア基本構想（基本的事項）



### かわさきフェアの令和6(2024)年開催に向けた基本的事項

1. 基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。</li> <li>・川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。</li> <li>・フェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。</li> </ul>
2. コンセプト	<p>Green For All!</p> <p>みどりは、すべての人に等しく存在し、まちづくりや暮らしのすべての場面で多様な効果を発揮します。</p>
3. 主催者等	<p>主催者 川崎市、公益財団法人都市緑化機構 / 提唱 国土交通省</p>
4. 開催期間	<p>令和6(2024)年の開催とします。</p>
5. 会場	<p>川崎の多様なみどりを知り、活かす活動を全市的に展開します。 式典や行催事等については富士見公園を想定しています。</p>
6. 入場者規模	<p>会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して基本計画以降、設定します。</p>
7. 入場料設定	<p>基本計画以降、設定します。(有料プログラムについても検討します。)</p>
8. 愛称 ・シンボルマーク	<p>開催テーマを象徴し、川崎市らしく、市民に親しまれるものを、基本計画以降、設定します。</p>
9. 開催事業費	<p>概算事業費は、基本計画以降、算定します。</p>

## 第3章 かわさきフェア基本構想（展開イメージとスケジュール）



### かわさきフェアの展開イメージ

- ◆ 「みどりのムーブメント」の取組を、多様な市民・企業とともに全市を挙げて推進するかわさきフェアを目指します。
- ◆ フェア終了後も取組を継続することで、川崎らしくより豊かな環境を未来につないでいきます。
- ◆ 今後開催に向けて、広く市民意見等を取り入れながら、詳細を決定し、可能なものから順次取り組んでいきます。

### 今後のスケジュール

		開催4年前 R2 (2020) 年度	開催3年前 R3 (2021) 年度	開催2年前 R4 (2022) 年度	開催1年前 R5 (2023) 年度	開催年 R6 (2024) 年度	
事業運営	計画策定等	基本構想	基本計画	実施計画	実施準備	かわさきフェア 取組継続 開催	
	実施体制	◆懇談会設置	★国との協議 ◆基本計画策定委員会設置	◆実行委員会設立 ・事務局設置			
	会場整備等		設計・整備				
全国の動き	フェア開催都市	広島県・広島市 他22市町村	熊本市	北海道・恵庭市	仙台市	川崎市（予定）	

# Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

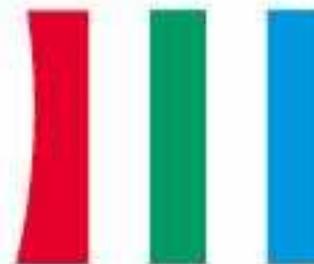
川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市